

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K05859

研究課題名（和文）QOL（生活の質）論に基づく農村経済多角化活動の成果分析と持続性評価指標の構築

研究課題名（英文）Analysis and Valuation Basis Construction of the Performance of Rural Economy Diversification: Application of QOL Concept

研究代表者

櫻井 清一（SAKURAI, Seiichi）

千葉大学・大学院園芸学研究院・教授

研究者番号：60334174

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：社会科学におけるQOL（生活の質）論の分析枠組に則り、農村経済多角化に貢献する経済活動が個人ないし地域社会にもたらした経済的・社会的成果を計測した。主観的QOLの視点から、台湾における農産物直売施設出荷者の総合満足度とその規定要因を明らかにした。顧客との交流とマネジメント志向が高い出荷者が高い総合満足度を達成していた。また、客観的QOLを把握するため、千葉県市町村の生活基盤統計と農業統計を合成したQOL計測指標を作成し、そのスコアを計測した。農業の盛んな東部と生活基盤が充実している南部の市町村で高いスコアが計測された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の遂行により、農村経済の多角化に資する経済活動の成果を、個人レベルの主観的QOLと、地域社会ないし国レベルの客観的QOLという二つの視点から検討し、定量的に評価することができた。主観的QOLについては、対象を農産物直売施設に限定したが、出荷者の満足度の実測と、満足度を規定する要因を分析し、消費者交流、マネジメント、いずれの視点も満足度を高める方向に働くことを実証した。客観的QOLについては、本研究で試行した簡易QOL指標を他地域でも適用すれば、生活基盤と農業農村固有の評価視点の双方を考慮したQOLスコアの地域間比較が可能になり、行政の評価指標としての活用も期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed at evaluating the economic/social performance of economic activities which contribute to the diversification of rural economy based on the perspective of QOL (Quality of Life).

From the perspective of subjective QOL, the overall satisfaction level of farmers' market vendors in Taiwan and factors which affect the satisfaction were investigated. Vendors who had a strong interest to interaction with customers and interest to farm management achieved high level of overall satisfaction. For evaluating objective QOL, a simplified QOL evaluation format was developed. This format evaluates QOL score by combining both life related and agricultural statistics. By utilizing the format, the QOL score of all municipalities in Chiba Prefecture was calculated. Eastern area, where agriculture was active, showed the high QOL score. QOL score was also high in Southern area, where basic service was abundant.

研究分野：農業経済学

キーワード：生活の質（QOL） 農村多角化 ローカルフードシステム 農産物直売所

1. 研究開始当初の背景

農村経済多角化活動がもたらした社会経済効果や活動の持続性の多面的な評価が求められている。評価のための分析視点ないし手法として、QOL (生活の質) 論が注目される。しかし近年、社会科学的分析において QOL 論の議論は希薄化している。一方、医学・健康学分野では QOL の一領域である健康関連 QOL に限定した議論が盛んで、研究業績の蓄積も著しいが、特定のフォーマットに限定したデータ収集とその分析にとどまっている。より包括的な視点に立った QOL 論の再構築と、農業・農村社会の諸問題を具体的に把握できる QOL データフォーマットの改良が必要である。

2. 研究の目的

QOL (生活の質) 論で用いられている主観的評価手法および地域社会単位の社会生活指標構築手法を批判的に援用し、多角化活動がもたらした諸効果を個人/集団/地域レベルに分けて測定するとともに、その成果を用いて多角化活動の持続可能性を評価するための指標ないし分析枠組を構築する。具体的には以下の3課題に取り組む。

- (1) 多角化活動が当該地域社会にもたらした社会的/経済的効果を具体的に計測する。
- (2) 多角化活動に対する個人レベルの主観的評価手法を確立し、複数(海外含む)のケースにて実証分析を行い、その比較により多角化活動の評価や持続性を高める要因を抽出する。
- (3) 上記の分析結果を活用し、多角化活動の持続性について評価できる指標・チェックポイントをまとめるとともに、簡易な形式で自己評価できるフォーマットを開発する。

3. 研究の方法

- (1) 既存の QOL 論をレビューする。健康関連 QOL に限定せず、かつて盛んだったより包括的な QOL 論の論点ないし研究手法を批判的にレビューし、今後の分析枠組の構築に活用する。
- (2) 客観的 QOL の視点に立った農業・農村 QOL 指標を構築するため、千葉県各市町村を対象とし、農業関連指標と生活関連指標を組み合わせた簡易評価指標を作成し、各市町村の QOL スコアを試算する。
- (3) 主観的 QOL の視点に立った農業・農村 QOL を把握するため、対象を台湾の農産物直売施設に出荷する農業者に限定したうえで、出荷者の総合的満足度を主観的に評価してもらう。同時に、出荷者の基本的属性と農業経営ないし農産物販売の主要局面に限定した満足度を把握し、総合的満足度がどのような属性ないし要因により規定されているかを定量的手法を用いて分析する。
- (4) 日本の農産物直売所を対象に、出荷者の健康関連 QOL を国際的に認められた調査フォーマットで客観的に把握し、その特徴を具体的に解明する。

4. 研究成果

- (1) 先行研究レビューを通じた分析対象および手法の明確化

QOL 研究は、個人の主観的な生活関連満足度の計測に基づく主観的 QOL 研究と、国ないし地域社会を対象として生活にかかわるシビルミニマム関連指標や社会インフラに関する統計を集計し分析する客観的 QOL 研究に大別される。日本では 1970 年代以降、社会科学にて包括的な QOL 研究が進展したが、自治体レベルの客観的 QOL を指標化する動きに批判が寄せられてからは研究蓄積が乏しくなっている。代わって医療分野における健康関連 QOL 分析が国際的にみても主流となり、研究蓄積は膨大である。分析手法も精緻化した。半面、社会的要因が過度に一般化されて指標に取り込まれている。今後、農業・農村を対象とした QOL を分析するには、自治体などセミマクロレベルの客観的 QOL 分析と、農村住民を対象とした個人レベルの主観的 QOL 分析を組み合わせる必要がある。

(2) 千葉県を対象とした農業・農村 QOL 評価指標の構築

千葉県内の市町村を対象とし、2015 年を基準年として、生活基盤全般の状況を示す複数の統計指標を合成して作成した一般的 QOL 指標のスコアと、農業及び農村生活の状況を示す統計を合成して作成した農業農村 QOL 指標スコアを合成し、総合 QOL 指標を作成した(図 1)。高スコアの市町村は県東部および県南部・安房地域に多く分布している。県東部は農業が盛んであるため、農業農村 QOL が高く、一般的スコアも安定している。一方、県南部は農業農村 QOL は県平均と同レベルであるが、生活環境を示す一般的 QOL のスコアが高く、全体のスコアを高めている。

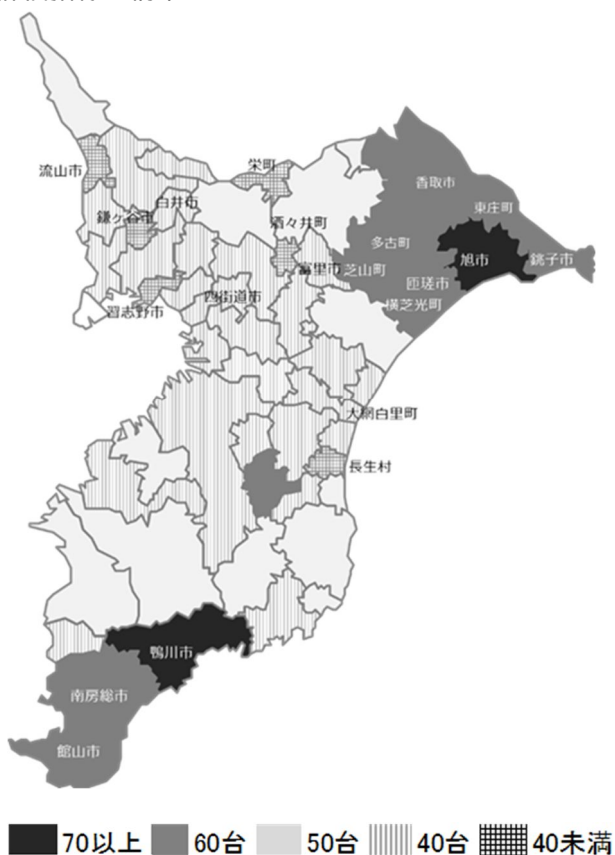


図 1 千葉県市町村の総合 QOL 指標

さらに県南部に立地する鴨川市を対象に、同様の手法で旧村レベルでの QOL スコア算出を試みた。一部統計の欠落があるが、QOL 指標を構成する一つの視点につき複数の統計指標を利用できる場合は、旧村レベルでスコア算出も可能であることを確認した。

(3) 台湾の農産物直売施設出荷者を対象とした総合満足度の規定要因の解明

主観的 QOL 指標の分析の一環として、台湾にて近年展開する 2 種類の農産物直売施設(ファーマーズ・マーケット[FM]と日本式直売所)に出荷する農業者を対象にヒアリングならびに質

問紙調査を実施し、回答者の属性並びに出荷に対する態度と実績を把握するとともに、主観的 QOL の代理指標として直売施設出荷に対する総合満足度を 5 段階で評定してもらい、総合満足度のレベルと、満足度を規定する要因を定量的に分析した。出荷に対する態度については、因子分析を用いて複数の因子を抽出した。FM 出荷者の総合満足度が日本式直売所出荷者のそれよりやや高かった。FM 出荷者のうち、顧客との交流やマネジメントを重視する出荷者の満足度が高かった。一方、出店歴の長い出荷者のほうが満足度が低い結果が得られた。出店歴の長い出荷者は近年出荷量が減少傾向にあり、このことが満足度を低めていると推察された。日本式直売所では、交流を重視する出荷者に加え、高齢で店舗の近くに住む出荷者の満足度が高かった。小規模でも継続的に出荷できることが満足度を高めていると推察された。

(4) 農産物直売所出荷者の健康関連 QOL

群馬県の X 直売所に登録された出荷者を対象に質問紙調査を実施し、基礎的属性、出荷行動、出荷に関する態度を把握するとともに、国際的に利用されている健康関連 QOL 調査フォーマットである SF-36 への回答を依頼し、出荷者の健康状態を把握した。健康に関するスコアを標準値形式(日本の全被験者の平均を 50 とした偏差値方式)で産出すると、心の健康と活力は全国平均を上回ったものの、身体に直接関連する項目のスコアは全国平均を下回った。全体的な健康のレベルを 2 次元に要約する 2 サマリー法を用いても、精神的健康が身体的健康を上回った。直売所への出荷は精神面の健康には一定の効果をもたらすが、出荷者の高齢化が進んだため、身体の直接的な疾病を改善するほどの健康効果はあまりみられないことがわかった。

(5) その他：本課題に関連する付随的な研究成果

以下では、本課題に関連して取り組んだ調査・分析により得られた付随的な研究成果を列挙する。

台湾における農産物直売施設を対象とした分析に関連して、台湾における過去 40 年間にわたる青果物流通経路の変化を、統計資料に基づき整理・分析した。青果物流通においては卸売市場の位置づけが今なお高いものの、市場そのものの再編も進み、長期的に見れば卸売市場経由率は低下していることを明らかにした。

日本の農産物直売所を対象とした分析に関連して、地産地消運動の展開や、日本におけるローカル・フードシステムの動向を整理し、学会シンポジウムにて報告した。

同じく農産物直売所を対象とした分析に関連して、群馬県 X 直売所での出荷者調査データを定量的に解析し、直売所出荷に対する基本的な態度について、因子分析により販売力、機動的な出荷力、品揃え力の 3 点が重要であることを明らかにした。さらにクラスター分析を用いて、出荷者を積極型 / 消極型 / 交流重視型 / 生産重視型の 4 区分に類型化した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Erika Mukuta, Seiichi Sakurai	4. 巻 33(1)
2. 論文標題 What Factors Increase Vendor Farmer Satisfaction?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一	4. 巻 29(3)
2. 論文標題 ローカル市場問題と食料・農産物市場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業市場研究	6. 最初と最後の頁 38-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 棕田瑛梨佳・櫻井清一	4. 巻 32(3)
2. 論文標題 台湾における青果物流通の変化に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 17-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 棕田瑛梨佳・櫻井清一	4. 巻 59(2)
2. 論文標題 台湾の直売施設における出荷者の特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 91-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平口嘉典・櫻井清一	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 座長解題 / ローカル・フードシステムの革新	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フードシステム学研究	6. 最初と最後の頁 88～90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5874/jfsr.28.2_88	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一	4. 巻 87(5)
2. 論文標題 農産物流通経路の変化と動向を把握する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一・霜浦森平	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 農産物直売所出荷者の出荷行動と顧客交流経験との関係性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業市場研究	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一	4. 巻 58(3)
2. 論文標題 農業および農村環境を考慮したQOL(生活の質)評価指標の構築に向けた予備的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一・胡曉丹	4. 巻 194
2. 論文標題 茨城県における加工・業務用野菜の動向 ~JA水戸・加工キャベツ部会の取り組みを中心に~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 野菜情報	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一	4. 巻 92(3)
2. 論文標題 書評: 波多野豪・唐崎卓也編著『分かち合う農業CSA ~日欧米の取り組みから~』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 295-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井清一	4. 巻 58(4)
2. 論文標題 書評: 李哉玄・森嶋輝也・清野清喜著『EU青果農協の組織と戦略』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seiichi Sakurai ,Shingo Teraoka	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 Feasibility and Issues of Rural Tourism Based on Inter-Industry Cooperation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Asian Rural Studies	6. 最初と最後の頁 88-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 棕田瑛梨佳, 櫻井清一	4. 巻 30(2)
2. 論文標題 台湾におけるオーガニックファーマーズマーケットの社会的役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 88-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 Erika Mukuta, Seiichi Sakurai
2. 発表標題 Community Function of the Local Food System in Taiwan
3. 学会等名 15th World Congress of Rural Sociology
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 櫻井清一
2. 発表標題 ローカル市場問題と食料・農産物市場
3. 学会等名 日本農業市場学会2021年度大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Erika Mukuta, Seiichi Sakurai
2. 発表標題 What Changes increase Vendor Farmer's Satisfaction? -In Case of Farmers' Market in Taiwan-
3. 学会等名 日本国際地域開発学会2021年度春期大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 櫻井清一
2. 発表標題 農産物直売所出荷者の態度形成と出荷行動 - 群馬県におけるケーススタディ -
3. 学会等名 令和3年度日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 棕田瑛梨佳・櫻井清一
2. 発表標題 台湾における日本式農産物直売所の運営・出荷に関する考察 新潟県の農産物直売所を事例として
3. 学会等名 令和2年度日本農業経営学会研究大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 棕田瑛梨佳・櫻井清一
2. 発表標題 台湾における青果物流通構造の変化と市場外流通販路多角化の考察
3. 学会等名 日本国際地域開発学会2020年度秋季大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻井清一
2. 発表標題 農業および農村環境を考慮したQOL（生活の質）指標の構築に向けた予備的考察
3. 学会等名 令和元年度 日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻井清一
2. 発表標題 農村を対象とした生活の質（QOL）研究の再検討
3. 学会等名 第66回日本農村生活研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 櫻井清一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 18
3. 書名 地産地消の現段階と農産物直売所の果たす役割（木立真直・坂爪浩史編『食料・農産物の市場と流通』所収）	

1. 著者名 櫻井清一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 12
3. 書名 農業のビジネス化（大浦裕二・佐藤和憲編『フードビジネス論』所収）	

1. 著者名 櫻井清一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 市民農園・体験農園・コミュニティガーデン（日本農業経済学会編『農業経済学辞典』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------